

2005年度 同志社大学大学院  
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程  
入学試験 第2次審査

試験問題

法律科目試験  
(刑事訴訟法)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 問題紙の本文は、1枚である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 解答用紙は、3枚1組である。
4. 各解答用紙の右上に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
5. 解答は、黒色のペンまたは鉛筆で記入すること。
6. 試験開始後は、終了まで試験場から退出できない。
7. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示に従わない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させる。
8. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。

2005年度 同志社大学大学院  
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程  
入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

---

次の各小問において、裁判所はそれぞれどのような措置・裁判をすべきか。

- (1) ① 窃盗罪で地方裁判所に起訴された事件について、審理した結果、裁判所は、窃盗罪は成立せず、器物損壊罪が成立するとの心証を得たが、告訴はない場合。
- ② 上記①において、さらに、起訴の時点で窃盗罪の公訴時効は完成していないが、器物損壊罪のそれは完成していた場合。
- なお、窃盗と器物損壊との間には公訴事実の同一性があるものとする。
- (2) 傷害致死罪で地方裁判所に起訴された事件について、審理した結果、裁判所は、傷害致死罪は成立せず、過失致死罪が成立するとの心証を得た場合。
- なお、傷害致死と過失致死との間には公訴事実の同一性があるものとする。